

台風第25号の接近に伴う農作物被害防止対策

平成30(2018)年10月4日
芳賀農業振興事務所

大型で非常に強い台風第25号が10月6日夜中～7日早朝にかけて接近する見込みです。県内でも、台風による大雨、強風等の影響が懸念されることから、以下の技術対策により被害防止に努めてください。

なお、台風による大雨、強風時においては、農作業及び農地・農業用施設の見回り等は行わないなど、身の安全確保を第一に努めてください。

I 共通

1 大雨対策

- (1) 大雨による冠水及び浸水等が心配されるので、事前に排水溝を設けるなど、対策を講じておく。
- (2) ゴミや刈り払った雑草が水路を塞がないよう、事前に取り除いておく。

2 防風網・防鳥網・多目的防災網等の点検、補修

- (1) 網が飛ばされたり破られたりしないよう固定状況を点検するとともに、破損部があると強度が低下するので補修をしておく。
- (2) 目が細かい多目的防災網等を展張している場合は、網の外側に支柱等を立て柵線に固定する。

3 ハウスの点検、補修、補強

- (1) 被覆資材の破損部や固定が不十分なところがないか点検し、補修を行っておく。
- (2) 筋交いにより奥行き方向への倒壊を防止する。また、ハウスの肩部を引っ張り資材や、つかえ棒で補強し、変形を防止する。
- (3) 使用していないハウスは、天井や妻面のビニールをはずして風を抜けやすくし、施設の損壊を防ぐ。

4 事後対策の準備

- (1) 被害後、速やかに回復措置がとれるよう、排水対策や施設等の修復、病害防除等の準備をしておく。

II 普通作物

1 水稲

- (1) 冠水した場合は、速やかに排水に努める。
- (2) 倒伏した稲は、晴れ間を見て株起こしを行い、穂発芽を防止する。また、刈取適期になったものは早期収穫に努める。

2 大豆・小豆・そば

- (1) 大雨による冠水及び浸水等が心配されるので、排水溝の点検をしておく。
- (2) 倒伏したそばは、起き上がってくるのを待ち、収穫時の土の混入を防ぐ。

III 野菜

1 全般

- (1) 強風対策として、ハウスやネットの点検・補修・補強を行う。特に、今回の台風では強い南風が想定されるので、南面の防風ネットの強化・再整備を行う。
- (2) ハウス側面からの風の吹き込みが、倒壊の要因となり得るため、側窓を完全に密閉し、特に巻き上げ換気（くるくる等）では、両端を地中杭に固定する。
- (3) ほ場の冠水及び浸水が懸念される場合は、排水対策に努める。

2 いちご

- (1) 炭疽病や萎黄病が発生しやすくなるので、排水対策を行うとともに、発生が懸念されるほ場では事前に予防散布を実施する。育苗期と本ぽで使用できる農薬が異なるので注意する。
- (2) 強風の影響を受けた苗については窒素成分を含む葉面散布剤を使用し、草勢回復を図る。

3 なす、きゅうり、トマト等

- (1) 強風による損傷や倒伏を軽減するため、茎や枝を支柱やネット、誘引線によく固定しておく。

4 ねぎ等

- (1) 事前に土寄せを行い、倒伏を防止する。

IV 果 樹

1 なし・ぶどう等（棚仕立て果樹）

- (1) 強風による枝や果実の損傷を軽減するため、結果枝等を棚によく固定しておく。
- (2) 成熟している果実は、台風接近前に確実に収穫するなど、適期収穫に努める。
- (3) 収穫が終わったほ場は、速やかに多目的防災網を閉じる。

2 りんご等（立木仕立て果樹）

- (1) 強風による枝や果実の損傷を軽減するため、側枝等太枝に支柱を設置したり、結果枝どうしを結束するなどして、固定しておく。
- (2) 成熟している果実は、台風接近前に確実に収穫するなど、適期収穫に努める。
- (3) 風当たりの強いところは、ほ場周囲に防風ネットを取り付けるなど強化を図る。

3 苗木

- (1) 強風による倒伏を軽減するため、支柱に固定しておく。特に、育苗中の「大苗」は倒伏しやすいので十分注意する。

V 特用作物

1 こんにゃく

- (1) 大雨による冠水及び浸水等が心配されるので、排水溝等の点検をしておく。
- (2) 腐敗病等の予防のため、台風通過後に登録薬剤を散布する。

VI 畜 産

1 畜舎

- (1) カーテン等の固定状況を点検し、補修、補強しておく。
- (2) 雨水の流入が心配される場合は、土のう等により対策を講じておく。
- (3) 車両や飼料、機器を水没しない場所へ移動しておく。
- (4) 風雨により浸水する可能性のある電気設備の防水対策を講じておく。

2 飼料用とうもろこし

- (1) 畑の排水路を確保する。
- (2) 収穫適期を確認し、早めに刈り取りを行う。
- (3) 折損したものは速やかに収穫し、必要に応じて調製時に水分調整や、添加剤（グルコースや乳酸菌等）を利用する。
- (4) 収穫適期に被災した場合は、今後の気象情報に注意し、ほ場に機械が入れる状態になったら早めに収穫する。収穫時は土砂が混入しないように高刈りする。土砂の付着の著しいとうもろこしは、サイレージの品質劣化等の懸念があるので収穫しないようにする。倒伏、高水分、刈り遅れはサイレージの品質低下が避けられないので、調製時に添加剤を利用する。また、給与に際しては、必要に応じてかび毒や栄養成分分析を行うとともに、栄養価、嗜好性等にも配慮し、補助飼料やかび毒吸着剤を給与する等家畜の生産性が低下しないよう注意する。

3 停電による搾乳不能に備えて

- (1) 発電機の準備と燃料の確認を行っておく。また、停電時に使用できない機器の事前確認を行っておく。
- (2) 停電時に搾乳する場合は高泌乳の牛から行う。また、濃厚飼料の給与は控える。
- (3) 再通電時は、機械類のショート、漏電に注意する。
- (4) 牛の体調を確認し、異常が認められる場合には、速やかに獣医師の診断を受ける。

(注意)

※ 農薬の使用に当たっては、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用量（希釈倍率や散布量）使用時期、使用回数等）を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。

※ 農薬散布に当たっては、飛散防止に十分注意する。

※ 倒伏、冠水等により土壌等が付着すると、放射性物質に汚染されるおそれがあるので、収穫物に混入しないよう注意する。

とちぎ農業防災メール登録 QR コード



登録 QR コード
(スマートフォン用)



登録 QR コード
(ガラケー用)

とちぎ農業防災メール登録ページ <http://www.mag2.com/m/0001637754.html>